

日本看護歴史学会

會報

日本看護歴史学会
第 21 号
1995年5月15日

戦後50年にも思うこと

G H Q の看護指導の体験記

五十嵐 節

昭和20年12月、東京都新宿区戸山町にある旧陸軍病院の中に国立東京第一病院（以下東一という。現在の国立病院医療センター）ができた。ここでは、昭和23年よりGHQ（連合軍総司令部）の指導による看護の再教育が実施されていた。私は昭和25年から32年まで約八年間を勤務した。就職面接時に初めてお会いしたのが、当時まだ若い吉田浪子総婦長であった。

戦後いち早く東一はGHQによりモデル病院とされ、看護の知識・技術・管理の再教育を徹底的に実施していたと思う。看護部の構成は、年功序列ではなく、25歳の病棟婦長の下に40代・50代のスタッフナースがいたり、戦勝者GHQでなくては最も上下のきびしい軍病院で考えられない人事や管理が

どんどんと進んで行われていた。看護の指導は、ミス・カルソンとハーターの名前を記憶している。最高指導者として、女医マニトフがいた。彼女は時どきやってきた（記録あり）。ある時は、病院職員を一堂に集め一喝して看護を中心とした組織のあり方を話した。とくに看護婦の役割に関して、医師に隷属している看護をみて具体的に看護とはを説いた。今でも、一言一句が記憶にとどまっているほど鮮烈であった。私たちは「マニトフ旋風」としておそれたが、今にして思えば当然のことだ。看護の本質を説いていたと思う。当時「婦長・看護婦・医者・小使い・モルモット・インターン」ということを耳にしたことがあるが、こんな皮肉を言われる程いかに看護

を中心とした患者のケアを問われたかを物語っている。

東一の再教育は、直接、外国人ナースから、または、22年に、保助看法で発足した新年度の看護学院の先生たちの指導も受けた。私はこの8年間に三カ月の指導者講習、一カ月の解剖学の教育（女子医大解剖学教室）をうけ、更に、28年には米軍49病院に二カ月派遣された。現在の築地のガンセンター、戦時中は海軍病院であったと聞く。そこで学生さんと呼ばれて検温、ベッドメイキング、臥床患者の全身清拭、背部清拭、マッサージをさせられた。当時、朝鮮戦争たけなわで主に戦傷者だったが治療の介助は見たこともなかった。

管理体制は非常に合理的で看護ケアをするにも物資が豊富ばかりでなく清潔さ、整理は抜群としか言いようがなかった。すべてが患者のためを考えられていた。ケアに関しては、ベッドメイキングの仕方ひとつでも少しでも「しわ」がよっていると作り直しなさい、と呼ばれる。シーツはいつもピンと張っていなければならなかった。褥瘡予防は非常に神経を使っていたと思われた。看護の役割については、自信とほこりをもって徹底していた。それだけに、たかがシ

ーツの小じわではなく、極めて重要なチェック項目なのである。

当時の日本の病院では、完全看護・完全寝具と言っていた頃であったが、シーツに関してはマットレスを包みこむだけの広さがなく朝のベッド整頓に行くと、シーツは脇が外れて背中丸まったりしているという状況もあったことも覚えていた。

また、食糧もままならぬ日本と比べて、当時、紙パックの一人用の牛乳が配られていた。ちょうど今の満ちたりた日本と変わりがなかったのである。このアメリカの豊かさを見たとき、敗戦日本のやむなさを痛感したものだ。

あれから50年、アメリカは戦後すぐに看護の大学教育化がはじまった。日本では昭和27年から約40年で僅か10校しかできなかった大学が平成元年より40校にもものぼり破竹の勢いで上昇しつつある。医療も変化し複雑となっていくなかで患者の幸せを奪わない看護を目指して行きたいものである。アメリカが歴史をふまえて長年培ってきた看護を日本では出来上りを重宝に使うてしまう傾向がある。

戦後50年、看護の行方を誤またぬよう、歴史からしっかり学んでいきたいと願っている。

第九回日本看護歴史学会開催案内

メインテーマ「戦後五〇年看護改革の行方」

本会々報第二〇号で御案内しました通り、今大会は戦後五〇年に照準を合わせ、日本の看護に一大転期をもたらすことになったGHQ（連合軍総司令部）の看護改革に直接関与された方々をお招きしました。

看護職必聞・必見の時代の貴重な証言を得ることは、今後の看護改革にも大きな示唆となるのではないでしょうか。会員・非会員を問わず、多くの方々の御参加を心より願う次第です。

◆開催日程

八月五日（土）午後一時開場
八月六日（日）午前九時開場

◆会場

京都市女性総合センター「ウィングス・京都」二階・イベントホール（二八〇名収容）
604京都市中京区東洞院六角下ル御射山町二六二

〇七五―二二二―七四七〇

◆第一日目 午後一時受付開始
午後一時半 開会

◆メイン行事

「私のかかわった戦後の看護改革」
コーディネーター 草刈淳子氏

午後一時三十分～二時三十分

講演 金子光氏

昭和一六年 厚生省人口局総務課厚生技官として入局

昭和二〇年 厚生省公衆保健局保健所課技官として保健婦問題に取り組む

昭和二五年 厚生省看護課長

午後二時三十分～三時三十分

講演 大森文子氏

昭和一七年 軍事保護院技手同院医療課勤務等

昭和二〇年 厚生省医療局（後の医務局）厚生技官

昭和四八年 看護課設置に伴い同課に配転

午後三時四十分～四時半

参加者との質疑応答

午後四時三〇分
会員総会

午後五時 閉会

◆第二日目 午前九時受付開始

午前九時半

会員による研究発表

座長 依田和美氏

午前十時（研究発表者の人数により、若干の変更あり）

担当 五十嵐節氏・高田節子氏

午後一二時半～一時半

昼食会を兼ねた懇親会（千円）

午後二時

シンポジウム

「私のかかわった地方の看護改革」

コーディネーター 五十嵐節氏
田中幸子氏

埼玉県

新井サダ氏

元大宮赤十字病院総婦長

京都府

岡部登美子氏

元京都府勤務

福井県

高岡スミ子氏

元福井県立病院総婦長

午後四時 閉会

総合同会

武藤美和氏

◆大会参加費

会員 三千元

非会員 四千元

学生（院生を含む） 二千元

◆参加申し込み方法

同封の振込み用紙に、参加者名（複数連名可）、参加費および懇親会参加の有無を明記し、来る七月一〇日までに振込みをして下さい。

◆研究発表の申込みについて

研究発表を希望する方は、「研究発表希望」と朱書きで、テーマと内容の概説を付し、六月一五日必着で左記へ郵送して下さい。

583羽曳野市はびきの三―七―三〇
大阪府立看護大学医療技術短期大学部 依田和美氏宛

◆会場までの見取図は四頁参照。

◆会場までの見取図は四頁参照。

◆分科会について

五十嵐 節

分科会については、創刊号から19号に至るまで毎号何らかの記載がありますが、分科会活動については、会報2号、3号、5号、8号、12号に特に、お知らせをしておりますが、近頃入会された方もありますので左記に趣旨と概略を述べます。

趣旨は、会員が自分と共通の関心分野の人々と交流を深めながら相互に啓発し、継続的に学習や研究内容を深めて行こうとするものです。

分科会の方針と趣旨を具体化したものは次のとおりです。

一、会員は自分の関心分野の分科会に主体的に参加し、継続的に学習や研究を行う。

一、大会は、研究報告、研究発表を行い、幅広い意見交換や、交流をはかる場とする。

一、分科会の構成人員は問わず、一人一分科会も設立しうる。

一、各分科会の代表者は、その会のメンバーの互選により選出される。(会報第2号より引用)

会員の関心分野は

文学・映像にみる看護、生活文化と看護、女性史、宗教と看護、看護思想史、近代看護史、ナイチンゲール、日赤の看護、現代看護史、看護制度史、GHQ、各国史、公衆衛生史、助産・助産婦の歴史、小児看護史、精神看護史、教育方法史、看護士の歴史、臨床看護史、社会と看護、法制史、その他などがあります。

今まで継続されたものを示します。○内数字は学会順。

- (1) 文学・映像にみる看護①②③
- ④⑤⑦
- (2) GHQ②③④⑤⑥⑦⑧⑧
- (3) 臨床看護史②③
- (4) 看護教育史②③④⑤⑥⑦⑧⑧
- (5) 宗教と看護②
- (6) 公衆衛生看護②
- (7) 助産・助産婦の歴史②④⑤⑥⑦⑦
- (8) ナイチンゲール③④⑤⑥⑦⑧⑧
- (9) 看護史・各国史③④
- (10) 病院史・臨床看護史④
- (11) 近代看護史⑤⑥⑧⑧
- (12) 日赤の看護⑥
- (13) 女性史・民族史⑦
- (14) 個人史⑦
- (15) 法制史⑦

今年、戦後五〇年、看護改革も叫ばれ五〇年、看護の改革の行

方を見失わないよう、それぞれの歴史のなかでしっかり見据えていきたいものと期待し分科会を盛り上げていただきたいと願っております。そしてここからまた看護歴史研究にと、つなげていってくださることを切にお願いいたします。分科会担当 高田節子・五十嵐節

第九回大会分科会

話題提供者の募集

- 1 内容 研究テーマ
- 要旨・呼びかけ(百字以内)
- 2 期日 六月末日
- 3 送付先

350-04 埼玉県入間郡毛呂山町

毛呂本郷三八

埼玉医科大学短期大学

五十嵐 節

第九回大会事務局

京都府立医大短大部

玄田公子・岡山寧子

602 京都市上京区清和院口寺町

東入

〇七五―212―15437または

212―15442

◆事務局連絡

○新入会員紹介(敬称略)

久保美智子 730 広島市中区橋本町

二二二―八〇一

牟田かつ子 830 久留米市山川安房

野三―八―三〇

岡部弘子 799-13 東予市喜多台四四

八一― 東予プラザハイツ203号

○住所不明の方々について御存知の方は、事務局に御一報下さい。

芝田香代子氏、平山厚子氏

佐藤佐栄子氏

○勤務先変更

藤村龍子氏、ライダー島崎玲子氏

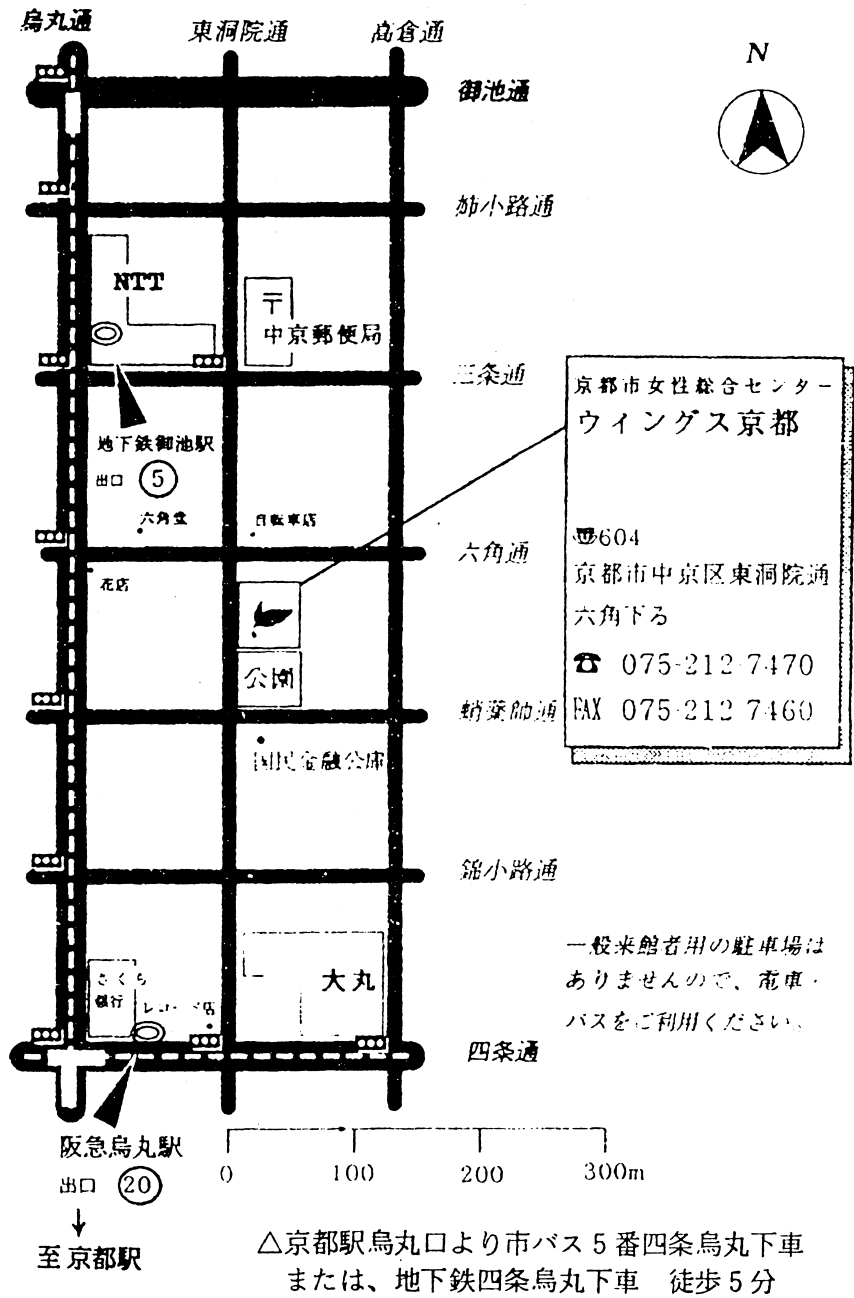
東海大学健康科学部看護学科へ

会費納入のお願い

会費滞納の方々が増加し、会の運営に著しく影響を及ぼしております。三年以上の滞納の方は退会として処理いたします。

郵便振替口座 〇一〇一〇一―五二一八五 日本看護歴史学会

第9回大会々場付近見取図



阪神大震災被災地の

会員各位の消息

○山崎雅代氏 居住マンションの被害は大きく、補修の必要性があり、知人宅に仮遇中。御本人は被災時に打撲とカスリ傷を受けられた。

避難先住所より四月末復帰

○横山嘉子氏 家屋全壊・家財道具一切を失なわれた。幸い怪我等の被害はなく、身内の方の所に避難中。

○避難先住所 663 西宮市堤町一―二七 田中恒夫氏方

徳田千恵子氏 居住されていたアパートが全壊。御母堂の負傷

御本人も精神的ダメージを受けながらも、看護業務に携わられている。

○勤務先 653 神戸市長田区久保町二 神戸協同病院四階

○森益美氏 自宅は瓦数枚の被害

編集後記

昭和二一年発行の「看護学雑誌」をみると、GHQの指導による指導者講習会の記事がある。その中には「患者に與へる看護法の足りない事、日本の看護婦は患者個人に對しての細い看護法、例へば體を拭く事、薬を飲ませる事等については一人一人の患者に與へる看護法が適當に行届いて居りません」等の指摘がみえる。さて、五〇年後の私たちは看護の方向性を正しく捉えているだろうか。今一度、原点に帰る必要はないか？（か）

日本看護歴史学会会報第二号

編集責任者 亀山美知子

発行責任者 玄田公子・岡山寧子

602 京都市上京区清和院口寺町東入 府立医科大学医療技術短期大学部

日本看護歴史学会事務局

260 千葉市中央区亥鼻一―八一―

千葉大学看護学部

看護実践研究指導センター

鶴沢陽子気付

○四三―二二六―二四五八